

平成 29 年度版高等学校『美術 1』内容解説資料

クワクボリョウタ
「10 番目の感傷（点・線・面）」



AR 該当箇所：教科書 P.60 赤枠部分

時間数

2 時間

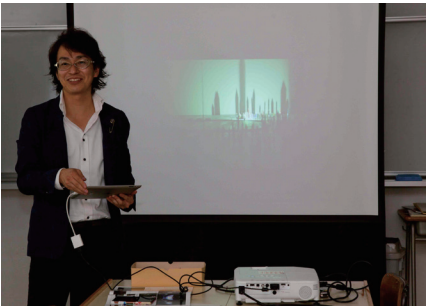
準備するもの

- 生徒 ●教科書
- 教師 ●教科書、タブレットもしくはスマートフォン (COCOAR アプリがダウンロードされた端末)、コンピュータケーブル、プロジェクター、スクリーン、ラジオカセットレコーダー、ペンライト、制作用小物 (瓶、コップ、人形、ガムテープなど)、ビデオカメラ

指導のポイント

■導入

クワクボリョウタ「10 番目の感傷（点・線・面）」は、身近な物の影を利用した作品である。AR で本作の映像を鑑賞させると、生徒たちは光と影による表現のおもしろさを感じ取り、制作への意欲を高めていく。可能であれば、制作するグループの数だけスマートフォンやタブレットを準備したい。



教師のタブレットをコンピュータケーブルでプロジェクターにつなぎ、AR の映像を投影させて、クラス全体で鑑賞する。

201X 年 光の旅
— 光と影の空間演出 —



■題材の目標

光と影を生かした表現のおもしろさやよさに関心を持ち、特徴を考えてあらわそう。

■ねらい

身近な物を使って、光と影を生かした幻想的な空間をつくり出すことができる。クワクボリョウタ「10 番目の感傷（点・線・面）」を AR で鑑賞し、生徒の制作意欲を高めたい。同じ物でも、光を当てる角度や距離によって、影は大きく異なってくる。さまざまな光と影の表現を試させながら、音楽に合わせた空間演出を追求させたい。

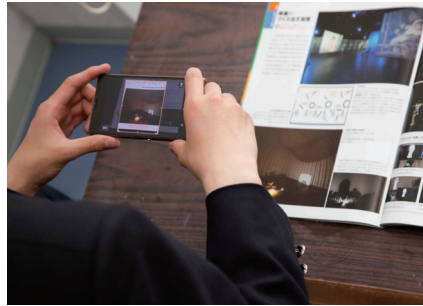
■観点別評価の規準

1 美術への関心・意欲・態度	光と影を使った空間のおもしろさを感じ取ろうとしている。
2 発想・構想の能力	音楽を聴きながら、それに合った演出や表現を探っている。
3 創造的な技能	演出効果を考えたうえで表現を練り直し、作品を仕上げている。
4 鑑賞の能力	作品の表現方法やねらいを理解し、話し合っている。

そうすることで、各グループが必要に応じて映像を鑑賞し、制作の参考にすることができる。

■音楽に合わせた空間演出

ただ光と影の表現を楽しむだけでなく、音楽のイメージに合わせた効果的な演出を考えさせる。本題材では、音楽から受ける動きのイメージを考え、リヒャルト・シュトラウス「ツァラトゥストラはかく語りき」の冒頭部分（約 1 分 30 秒）を設定した。



手元にスマートフォンやタブレットがあれば、それぞれのペースで映像を鑑賞できるところも、AR の利点だ。

生徒にとってなじみの少ない活動であるため、まずは教師が実演してイメージをつかませる。音楽を聴きながら、静から動に移る動きの展開を、どのような影で表現するか工夫させたい。

■身近な物の影を楽しむ

影を映し出す物は、美術室の中の物であれば、展示作品を除いてどれを選んでもよいことにする。生徒の発想が広がるよう、教師は可能な限り幅広い材料を美術室に準備しておきたい。

身近にある見慣れた物も、光を当てて影になることで印象が変わることや、同じ物を使っても、光を当てる角度や距離によって、多様な表現ができることに気づかせる。音楽に合わせた空間演出の制作にはいる前に、グループごとに影を楽しむ時間を設け、生徒たちにさまざまな表現を模索させたい。

授業の展開

生徒の活動	教師の指導と評価の留意点	評価の規準	時間数
映像作品の鑑賞 ◎AR を活用してクワクボリョウタ「10 番目の感傷（点・線・面）」を鑑賞し、光と影を使った空間演出について学習する。	◎作品の鑑賞を通し、光と影による空間演出のおもしろさを感じさせる。 ◎作品で使用されている材料が鉛筆やザルなど身近な物であることを解説する。	1 4	0.2 時間
教師による実演の鑑賞 ◎音楽に合わせた光と影の空間演出を考える活動であることを理解する。 ◎教師による実演を鑑賞する。	◎使用する音楽 (リヒャルト・シュトラウス「ツァラトゥストラはかく語りき」) を鑑賞させ、この音楽に合わせた表現を考えていくよう伝える。 ◎ペンライトを使って、音楽に合わせて実演する。	1 4	0.3 時間
制作の準備 ◎3 ～ 4 人のグループに分かれ、美術室の中から制作に使えるような物を探す。 ◎選んだ物をペンライトで照らして、壁に映る影の形を確認しながら、音楽に合わせてどのような表現にしていけるかをグループで相談する。 ◎音楽を聴きながら、空間演出の構成を考える。	◎美術室の中の物であれば、展示作品を除いてどれを選んでもよいことを伝える。 ◎ペンライトを使用する際は、人の目に向けられないよう安全指導を行う。 ◎生徒の様子を見ながら、適宜音楽を流す。	1 2 3	0.5 時間
制作と発表 ◎一度、グループごとに音楽を流しながら、演出のリハーサルを行う。 ◎お互いのグループの演出に関して、感じたことや気づいたことを意見交換する。 ◎意見交換を受けて構成を調整し、最後に、グループごとに演出を発表する。	◎お互いの発表を基に活発な意見交換ができるよう、生徒の発言を引き出す。 ◎最後の発表はビデオカメラで撮影し、記録として残す。授業だけでなく、文化祭などのイベントでの発表につなげていくことを伝える。 ◎生徒 1 人 1 人が映画監督のように空間演出を考えたことを称え、達成感をもたせる。	1 2 3 4	1 時間

■発表と展開

各グループごとにリハーサルを行い、意見交換を経て調整した後、最後の発表を行う。この発表は、全てのグループの作品をビデオカメラで撮影する。音楽と合わせた映像作品として記録しておくことで、文化祭などのイベントでも作品を発表し、発表の場を広げていくことができる。



透明のコップに光を当てると、幻想的な影が映し出された。実際に試してみることで、物の影はさまざまであることに気づかせられる。



発表の様子。音楽の壮大な世界観を表現するよう壁一面に影を映し出すグループや、「ダンダンダンダン」という音に合わせて足踏みを映すグループも見られた。